

釧路市教育委員会 平成30年第14回9月定例会会議録

1 日時：平成30年9月28日（金）13時30分から14時50分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、高松教育指導参事、
江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、
小野施設計画主幹、土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、
仲谷学校教育課長、米田学校給食課長、澤口生涯学習課長、
小野生涯学習課長補佐、工藤スポーツ課長、北澤国体推進室長、
佐藤博物館長、古賀動物園長、山田音別生涯学習課長

4 議事録署名人 種村委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 平成30年第3回釧路市議会9月定例会の議決結果について
- (2) 平成30年第3回釧路市議会9月定例会の審議内容について
- (3) 全国学力・学習状況調査における釧路市の結果について
- (4) エンジン01in釧路開催プログラム等について
- (5) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】 報告事項

- (1) 平成30年第3回釧路市議会9月定例会の議決結果について
- (2) 平成30年第3回釧路市議会9月定例会の審議内容について

(藤岡総務課長)

先の定例教育委員会において議案として審議、承認いただいた教育委員会に関わる補正予算案など、合計3件の議案について、釧路市議会9月定例会において、全て原案どおり可決、承認されたことをご報告する。

また、釧路市報告第25号の「平成29年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書の提出の件」など、合計4件について、報告が完了していることをご報告する。

教育委員会所管分を含めた平成29年度決算については、10月3日に採決される予定である。

引き続き、審議内容については、学校教育部長と生涯学習課長から報告する。

(高玉学校教育部長)

平成30年第3回釧路市議会9月定例会、学校教育分に関わる一般質問の概略を説明する。

新創クラブ 大越拓也議員より、教員の働き方改革に関して、北海道アクションプランに基づく市の対応と、地域コーディネーター導入による成果、課題などについてご質問があり、私より、市の対応については、今年度部活動休養日の実施と学校閉庁日の設定の2つの取り組みを試行的に実施し、これを踏まえ行動計画を策定してまいりたい。地域コーディネーターについては、教員が担ってきた業務を担うことにより、教員が教材研究や教育相談などにより力を注ぐことができるようになるなど、様々な面で効果が出ている一方、地域と学校の双方の実情に精通している人材確保が容易でないことが課題である旨お答えし、また、教育長より、地域学校協働活動の推進について、学校と地域という双方向の連携を目指すものとの認識と、国の方針や道のアクションプランなどにも、この活動をより強力で推進していくことが明記されていることを十分に踏まえ、教育委員会も対応してまいりたい旨お答えした。

同じく、大越議員より、登下校防犯プランに関して、市の取り組みと教育懇談会にて要望のあった防犯カメラの設置についてご質問があり、私より、市の取組については、不審者情報等の共有、こども100当番の家や店、ランドセルなどにICタグをつけ児童の登下校を把握する学校防犯システムを小学校3校に導入しており、このシステム導入については少しでも増やせられるよう検討してまいりたい。町内会で設置を検討している防犯カメラについては、関係機関との調整や事務手続きなどの協力をしているとともに、国の支援制度の情報収集に努めてまいりたい旨お答えした。

公明党議員団 河合初恵議員より、日常生活の中で消費しながら備蓄するローリングストックなど、家庭で親子が話し合える防災教育についてご質問があり、私より、学校に対し、

ローリングストックなどの視点も加えた防災学習を働きかけてまいりたい旨、お答えした。

日本共産党議員団 工藤正志議員より、通学路における安全性が確認できなかったブロック塀の件数についてご質問があり、私より、安全性が確認できなかったブロック塀は23件確認したものの、そのブロック塀がある通学路については反対側の歩道を登下校することにより、現状では通学路に安全性が確認できなかったブロック塀はない旨、お答えした。

市民連合議員団 宮田団議員より、老人福祉施設整備協力費に関して、学校跡利用検討会議での議論についてご質問があり、私より、学校跡利用検討会議にて、土地や建物を維持管理していくよりも跡利用を図ることが有効と判断、旧星園高校を老人福祉施設用地の利用への方向性が承認され、9月5日に福祉部へ所管替えをした旨お答えした。

自民クラブ 山口光信議員より、株式会社コンサドーレとの包括連携協定書に関して、旧柏木小学校の活用の動きについてご質問があり、私より、旧柏木小学校体育館の活用について問い合わせがあることから、学校跡利用検討会議において方向性を確認しながら、活用に向けた検討を進めてまいりたい旨お答えした。

市政進クラブ 鶴間秀典議員より、パラスポーツ振興に関して、パラスポーツの授業での活用についてご質問があり、私より、総合的な学習の時間などを活用し、パラスポーツを通じた講演会や体験会などの情報を提供してまいりたい旨、お答えした。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、子どもの生活実態調査に関して、国の交付金を活用して調査を実施してはとご質問があり、私より、教育委員会独自での調査は実施していないものの、施策立案にあたっては市内の既存のデータや北海道のデータを活用しながら取り組んでまいりたい旨お答えした。

同じく、梅津議員より、洪水に特化した避難訓練の取組についてご質問があり、私より、総務部と連携しながら、洪水の際の避難施設の確認と避難訓練の取組などを整理したうえで、学校に周知してまいりたい旨お答えした。

ここまでが、本会議一般質問の概略である。

次に総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

公明党議員団 月田光明議員より、全国学力・学習状況調査の結果の受け止めと、釧路市基礎学力検証改善委員会の在り方の見直し、秋田県との指導主事レベルでの交流についてご質問があり、教育長より、今年度の結果においては小学校国語Aで上回ったものの、他の科目では上回ることができず、重く受け止めている。委員会については、国語における授業は一定程度改善してきている一方、算数・数学に改善が見られない状況であり、改善プランが全教員に周知されているかが課題である。秋田県との交流については、道教委において北東北3県との人事交流を行っていることから、今後、この制度の活用が可能か、検討してまいりたい旨お答えし、また、市長からは、基礎学力の定着は重要であるとともに、地域の未来を担う子どもの可能性を高めていくこととイコールであり、成果が上がっている例を検証し、教育長とともにしっかりと対策を考えてまいりたい旨、お答えした。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、教員の働き方改革に関して、教員の部活動への負担軽減と、体育、音楽、英語における専科の先生や特別支援教育における教員の加配につい

てご質問があり、教育長より、部活動の指導については、外部指導員の活用や一つの部活動の顧問に複数の教員を配置するといった工夫により、教員の負担軽減を図っている、専科教員や特別支援教育の教員については、今後も北海道都市教育委員会連絡協議会等を通じて、加配の拡充も含め、教員定員の改善について、国や道教委に対し要望してまいりたい旨、お答えした。

(川畑生涯学習課長)

私からは、生涯学習部に関わる一般質問の概略を説明する。

新創クラブ 大越拓也議員より、11月に開催される「エンジン01in釧路」に関し、開催の目的と意義、現在までの進捗状況と今後の予定についてご質問があり、市長より、開催地に釧路市が選ばれたことは、これまで当市が多くの文化人を輩出し、文化に対する様々な取組が評価されたものと受け止め、釧路の文化力の高さが評価されるまたとない機会であることから、多くの市民と情報発信力の高い講師の方々の交流に期待するとともに、多くの皆さんのご協力をいただきながら、市を挙げて本事業の成功に取り組んでまいりたい旨お答えし、また、私より、8月30日の合同記者会見においてプログラムが発表となったことから、中学生・高校生を対象にしたプログラムについては、市内の中学校・釧路管内の高校全生徒にパンフレットを配布し、9月15日から始まる一般講座などのチケット販売に合わせ、新聞等あらゆる媒体を活用するなど周知に努めている旨お答えした。

日本共産党議員団 工藤正志議員より、小・中学校の授業や美術部等の成果を発表できる展示スペースなどの使用に関し、公共施設の使用料無料化についてご質問があり、私より、小・中学生が部活動などの成果を発表する場があることは、子どもたちにとってやりがいを実感できる貴重な機会であるが、各施設の性格に応じて相応の受益者負担をいただき維持管理に充てており、現在有料としているスペースを無料化することにはならないこと、また、部活動の成果発表の場として使用する場合は、生涯学習センター等の使用料を5割減免する取り扱いをしていること、生涯学習センター2階ロビーなど無料で使用できる施設の使用を検討いただきたい旨、お答えした。

同じく工藤議員より、図書館バスに関して、運行状況と武佐地区における運行コースの変更についてご質問があり、私より、図書館バスは中央図書館やコア3館の図書館から2キロメートル以上離れた地域19か所にバスステーションを設置し、月2回運行しており、平成12年に老朽化したバスを減車し、現在は1台体制で運行していること、武佐地区の運行コースについては平成16年度以降変更がなく、年間200名を超える利用がある中で、コースの変更は難しい旨、お答えした。

同じく工藤議員より、図書館に関して、恵庭市で行っている図書宅配サービスについてご質問があり、私より、恵庭市の事例等については承知しているものの、需要と費用負担のバランスを見ながら制度化されるものと考えており、今後も先進事例の利用状況などを踏まえながら、動向を注視していきたい旨お答えした。

同じく工藤議員より、中央図書館学習室の利用状況についてご質問があり、私より、設備

が異なる旧図書館と単純比較はできないものの、2月の開館から8月末までの延べ利用人数が44,905人であり、約10倍以上の利用増となっている旨、お答えした。

自民クラブ 山口光信議員より、株式会社コンサドーレとの包括連携協定調印に関して、本市におけるスポーツ活動振興や青少年育成への影響についてご質問があり、私より、連携協定では、サッカーの普及活動支援、少年期における育成活動推進が掲げられ、コンサドーレの持つ育成ノウハウを地域に伝授いただき、憧れの選手から直接指導を受ける機会が設けられ、多くの子どもたちにとって貴重な機会になる旨、お答えした。

同じく山口議員より、包括連携協定を結ぶに至った経緯や調印式での会話内容、今後の具体的な取組状況についてご質問があり、私より、2016年のコンサドーレ釧路アンダー15、アンダー12の設立を契機に協議が始まったこと、調印式において野々村社長より釧路からコンサドーレ選手となり、世界に出ていくことを期待したいとの発言があったこと、具体的な取組として、現役選手によるサッカー教室開催、長期的なプロ・コーチ派遣などを検討している旨、お答えした。

市政進クラブ 鶴間秀典議員より、パラスポーツ振興に関して、湿原の風アリーナなど、スポーツ施設における車いすバスケの使用についてご質問があり、私より、他都市の状況を参考としながら、必要な受け入れ体制について、競技団体や指定管理者と協議していく旨お答えした。

同じく鶴間議員より、パラスポーツやノーマライゼーション、インクルーシブ社会の実現に向けた取組についてご質問があり、教育長より、2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、釧路市はベトナムを相手国とするホストタウンと認定されており、事前合宿誘致のアプローチを進めているところであり、こうした活動を通じてパラスポーツの普及振興やインクルーシブ社会の実現に向けた子どもたちへの関わりを進めてまいりたい旨、お答えした。

日本共産党議員団 松永俊雄議員より、旧図書館跡地の活用とアイヌ文化についてご質問があり、私より、幣舞町エリアがアイヌの方々にとって大切な場所であることは認識しており、建物解体工事費の財源確保も含め、跡地利用にあたっては一定の方向性を持って関係部署と協議を進め、議会議論の経過も踏まえ必要な検討を行っていく旨お答えした。

次に、旧図書館跡地の活用をアイヌ文化を発信する拠点として取り組んでいくことについてご質問があり、教育長より、アイヌ文化の発信については、まずはイオル再生事業をしっかりと進めていきながら、跡地をどのように利用していくべきかあわせて検討していく旨、お答えした。

ここまでが、本会議一般質問の概略である。

次に総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、釧路市民文化会館のネーミングライツ導入に関して、議会对応や応募要件などについてご質問があり、市長より、ネーミングライツ事業については、釧路市広告事業実施要綱に基づき進め、その大枠はすでに議会に示しており、今回はその中の個別案件として進めたものである旨お答えし、また、教育長より、大きな都市以

外ではネーミングライツに応募する事業者は少ない傾向にあり、施設の収容規模や築年数、人口規模などを踏まえ、千歳市の施設を参考として要件を設定した旨お答えした。

◎特に意見なし。

【公開案件】報告事項

(3) 全国学力・学習状況調査における釧路市の結果について

(土江田総括指導主事)

7月31日に文部科学省より公表があった平成30年度全国学力・学習状況調査について、8月の定例教育委員会にて速報としてご報告したが、その後、基礎学力検証改善委員会にて検証を加えた、釧路市の小・中学校の全体的な傾向がまとまったので、その結果を考察も含めながらご報告する。

領域別平均正答率について、小学校では、国語Aのおおむねほとんどの領域で、算数Aの“量の大小の比較や角度の測定”などにあたる「量と測定」の領域で、全国平均とほぼ同様の結果だった。これまで課題が見られていた「書くこと」の領域では、経年変化で全国平均との差が縮まり、「読む力」に焦点を当てた「書くこと」に係る授業改善の取組が、改善につながっているとみることができる。

中学校では、漢字の読み書きなどにあたる「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「書くこと」等の国語Aのすべての領域において、経年変化で改善が見られる一方で、数学A、Bでは領域別で見ても、全国に届いていない現状だった。

次に、各科目における分析だが、国語、算数・数学、理科及び今後の学習指導の方向性について、ご説明する。

小学校国語の分析結果については、“相手や目的に応じ、筋道を立てて話すこと”や“慣用句の意味を理解して使うこと”はよくできていた。“文章の特徴を捉え、全体の構成を考えて書くこと”や“目的や意図に応じて情報を取捨選択して書くこと”に課題が見られたが、少しずつ「書くこと」に関して改善が見られた。

中学校国語の分析結果については、“漢字の読みや書き”や“慣用句の意味を理解すること”はよく出来ていた。また、“目的に応じて、整理して書くことや構成を考えて書くこと”に課題が見られた。

小学校算数の分析結果については、「数と計算」の領域の四則混合の計算、「量と測定」の領域の角の大きさを理解することは、おおむね満足できる状況だった。一方、日常生活の事象を数学的にとらえ、表やグラフを相互に関連付け適切に判断・表現する問題に課題が見られ、わかりやすく説明する問題などは、無回答率が高い結果だった。

中学校数学の分析結果については、“単項式どうしの計算”や“簡単な比例式を解くこと”はおおむね満足できる結果だった。“対頂角が等しいことの証明”など、証明の必要性和意味の理解や“図形の証明”など、証明を振り返り発展的に考えることに課題が見られた。事象

を数理的に捉えて、問題を自立的・協働的に解決する数学的な活動を取り入れるなどの授業改善の方向に加え、日常の学習を通して、決められた時間の中で一定程度の課題量をこなすことや最後まで粘り強く、根気強く取り組む姿勢を指導することを丁寧に学校に伝え、授業改善などの取組とともに、効果的な家庭学習の取組などについて、意識啓発していきたいと考えている。

小学校、中学校理科の分析結果については、学習の指導に関して、どの領域においても科学的に探究する学習活動を進めていくことが必要である。

次に、同一集団による推移について、全国と釧路市の下位層の差が、国語 A ではH27 の全国比で+3.1 ポイントであったのに対し、H30 では全国比+0.3 ポイントと下位割合が減少しほぼ全国値と同様になっている。しかし、算数・数学A、Bにおいては下位の割合が増加しており、同一集団の経年比較でも、算数・数学に課題が見られた結果となった。

また、同一児童生徒の経年変化、つまり、今年度の中学校3年生の結果を、小学校6年生であったH27の結果と比較すると、国語Aにおいては、1.5 ポイント差あったものが0.4 ポイント差になるなど、改善傾向を伺うことができた一方、算数・数学Aでは、2.2 ポイントの差が、4.2 ポイント差に広がるなど、大きな課題となった。

さらに、「平日2時間以上、授業以外で学習する児童生徒の割合の推移」については、学習に取り組む生徒の割合が増えたことや、「家庭で全く学習しない生徒」の割合が減少していることとあわせて、家庭学習の取り組む内容の改善や効果的な家庭学習の方法についての事例などを、今後、周知していくように考えているところである。

次に、家庭での取組と子どもの学習に関して、学力調査の結果及び児童生徒質問紙とのクロス集計をしている。このクロス集計の結果は、今年度より新たに取り上げたものであり、学力が上位となった子どもの特徴を取り上げ、学校とも連携するとともに、ホームページを活用し、「規則正しい生活と自尊心を持つこと、勉強への一定の意欲」に関して協力を頂けるよう、広く家庭に周知していきたいと考えている。

各学校においては、自校データの分析結果と課題や改善策などをまとめ、学校便りなどを通して、学校全体の概要について保護者に周知する予定であり、学力向上プランにも記載し、各学校のホームページで公表する予定である。

また、昨年度に引き続き今年度も道教委が分析ツールを使った基本のフォーマットでの市町村別公表を行う予定となっており、本市も公表に同意をしたため、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会のホームページにも掲載する予定となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

基礎学力検証改善委員会での取組は、今までの定例教育委員会の中でも話題にしながら、初期のころの検証委員会での取組よりも最近は、経過に伴ってより具体的に課題を明確にし示すなど、質的にもレベルアップしていることは確認されているが、基礎学力検証改善委

員会できちんとまとめて、こうあるべきものだと示したものがどういうふうに各学校、各先生が活用しているのかこれからメスを入れていく必要がある。前回の定例教育委員会では、小学校、中学校の国語は努力の成果が出てきているが、中学校の数学については危機意識をもって頑張らなければいけないということを話していたが、その件について何か考えはあるか。

(土江田総括指導主事)

今回の報告については学校の中で教科の先生、担任の先生に周知できるよう、校長会、教頭会を通じてしっかり中身を読んでいただき、授業改善に使ってもらおうよう、周知をすることと、今後学力向上セミナーと学力向上の担当の先生方が集まる機会が何回かあるので、その際に詳しく資料を周知してもらおうこと、特に中学校数学において結果が出てない部分もあるので、数学担当の先生にセミナー等に参加してもらえるような作戦を検討したい。すべての数学の先生方にも、参加してもらえるような研修講座またはセミナーのような形で何か工夫できるようなことはないか今後新たな方策として考えたいと思う。

(山口委員)

校長会、教頭会を通して各学校で取り組んでもらいたいことを周知するのは常套手段であるが、そこで受け止めた校長、教頭先生方がそれぞれの学校に戻ってどうやって落とししていくのか、その内容を先生方がどういう意識を持って受け止めているのかがポイントだと思うので、より実効性が上がる方法を考えていただきたい。また、担当者のセミナー等の参加方法についても、非常に大切になると思う。どの時期にやるかというのもポイントである。今回の結果を受けて、今年度の授業の中で実践の中で改善してもらって成果を上げるためには、できるだけ早い時期のどういう方法ですべての先生方に参加してもらおうのかが非常にポイントになると思う。

もう一つ、今回の結果を教育委員会、各学校のホームページに載せて各家庭の周知徹底を図ると言っていたが、ホームページに資料を公表するときに読み解くことが難しいと思う。家庭に理解を深めてもらうことであれば、各家庭の保護者の方がきちんと読んで理解してもらうためにはホームページに載せる資料の精査が必要だと思う。

(土江田総括指導主事)

家庭にわかりやすく伝えるために家庭で取り組んでもらいたいことを別資料で作成している。児童生徒の質問紙と学力調査のクロス集計からみえる子どもの特徴を記載し、勉強を毎日しなさいというだけではなく、毎日朝食を食べているだとか学校での出来事を家で話しているとか計画を立てて学習することが大事であるということ、家庭に周知をすることから家庭で取り組んでもらうことを明確にしていきたいということで、この資料を各学校にデータで配信し、各校で各校の特徴を載せるのと同時に載せてもらい、周知してもらおうようお願いしているところである。

(山口委員)

各家庭にその資料を教育委員会サイドとしては非常にわかりやすくまとめた資料として提供したい。しかし、クロス集計結果という業界用語すらこれはなんだという風になると思う。

そのあたりも考慮しながら保護者にわかるような資料にして示してほしいと思う。

(小出委員)

学力向上のためには学校の勉強だけではなく、家庭学習も大事になると思う。小学校から家庭学習の習慣づけを先生に指導してもらっており、習慣はだんだんついてきていると思う。小学生は工夫してノートをきれいに作ったりするなどして家庭学習しているが、中学生になると、内容が難しくなったり部活動もあるため、なかなか習慣づいていたものが引き続き同じようにできなくなってきた子もいると思う。どのように家庭学習をしたら効果的なのかという指導も学校の方からしてもらえるとより効果が上がると思う。家庭学習の時間について、毎日する生徒が何パーセントとか調べていると思うが、やれば学力は伸びると思うが、時間だけやればいいということでもないと思う。効率的な勉強のやり方は自分で見つけなければいけないというのは大前提だが、それを後押ししてくれるような学校側からの家庭学習のやり方も具体的に積極的に指導してもらえたらいいと思う。

(山口委員)

今の意見に関連して、例えば家庭学習をやるために一番手っ取り早いのは、先生が今日の授業を踏まえた宿題を与えて家でやってもらい、宿題をやったことを前提に次の時間に結び付けていく。そういうスパイラルが年間指導計画の中でそれぞれの教科の先生が、家庭学習を意識しながら計画を作れば自然的に家で宿題をやらなければいけないということも明確になる。そういった取組を実行している学校はあるのか。

(土江田総括指導主事)

家庭学習の手引きに関しては、各学校では4月当初に配って説明しているところだと思うが、定期的にこういう内容の家庭学習をした方がいいという指導をする等、各学校に話していきたいと思う。また、家庭学習と授業のリンクに関して、行っているところを押さえてはいないが、教育課程のカリキュラム上あると思う。全ての教科で家庭学習を全部出すと宿題の量がすごく多くなってしまうので、そこを調整しながらやっていると思う。あくまでも中学校における宿題は家庭学習の入り口のものだと思うので、計画的にやっていけるようにしたいと思う。

(種村委員)

学力テストについて、附属中の結果は入っていないので他の地区との差が生じていると思うが、その影響はどのように考えているか。

(高松教育指導参事)

附属小中を交えた点数については2年ほど前に、釧路市全体の子どもたちということで公表した経緯がある。国語で1、2ポイント、B問題になると3ポイントほど押し上げる結果だった。整数値の公表になり、各学校に提供される数字も整数になっており、今回独自の方法で小数点まで出している関係で、整数値の段階の附属の点数を交えた作業となると附属小中そのものに小数值での提供をお願いすることをしないと誤差が生じてしまうことから、2年前に行ったが、整数値提供ということで去年、今年は附属を除いた形の公表に戻した。小学校も全国平均と比べてB問題を除いてほとんど-1ポイントくらいできているが、小学校に

において試算したときには、0.6、7ポイント押し上げているので附属の結果を入れるとほぼ全国平均と変わらないことが言えて、中学校で全国平均より若干低い状況にあると思う。整数値提供になってから処理上、難しいものがある。

(種村委員)

学力テストが今回の地震の関係で学校が日にちがまちまちになり、1週間ぐらわずれて実施されている。入試の参考になるテストだが、回答が漏れたりすることがある。教育委員会で統一させることはできないのか。

(高松教育指導参事)

基本的には実態として全道で100%行われているテストだが、形的には各学校の回数については任意の参加ということで、教育委員会で統一を図るものではない。ただ、数年前に発行日を原則としながら、1、2日ずらしながら開催されている実態もあった。委員のご指摘のとおり、問題が知れ渡ってしまうということでここ2、3年は発行日に実施していた。今回についてはもともと12日発行の予定だったが、物流の関係で文化協会が12日に問題を届けることができないということで、文化協会から19日という指定があった。すでに学校行事が組まれていて、中には20、21日に文化祭を予定している学校があり、どうしても日程調整が難しいということで、校長会でも今回はやむを得ないということで各学校の任意の日程でA問題については行うことになった。

(松尾委員)

保護者に向けて、これだけ生活がしっかりしている、自尊感情がもてる、情操的にもしっかりしている子どもが学力的には良いということをはっきりわかりやすく言うと、うちも何とかしなければならぬというふうに思ってもらえるのではないかと思う。たしかに生活が乱れている家庭などいろいろな家庭環境もあるが、だからと言ってうちの子は勉強ができなくてもいいと思っている親はいないと思うので、親からも家庭環境を変えていこうという気持ちがないと、子どもの学力も上がっていかないと思う。親に対してもわかりやすい広報のしかたを考えてほしいと思う。

(山口委員)

地域懇談会の中で、PTAの方からもっと家庭でやるべきことをきちんと情報提供した方がいいという意見があったが、効果的な情報の出し方を今後考える必要があると思う。一生懸命やっている保護者の方々、PTA活動を熱心にやっている方々も保護者サイドから何とかならないかという意識を持っていると思う。

(種村委員)

結果の資料について非常によくまとめられていると思うが、こういうデータはどういったアンケートを基にして出されているのか。

(高松教育指導参事)

今回のデータは、全国学習調査の中で学習状況調査ということで、児童生徒全員に聞いているのでその中から導き出している。今回の資料のつくりはもともと教職員を対象としてその指導方法の改善のために作られたもので、難しい言葉が多い。学校がより簡易な言葉でポ

イントを絞って保護者にわかりやすく紙媒体で出すというような棲み分けをしており、学校はわかりやすくして自校の分析結果と併せて保護者に周知することになっている。HPにもあげていることから、先ほど土江田総括指導主事が言ったようにぜひ今回保護者用に作ったデータを学校の公表の時に使っていただくとか、家庭に届けたいということで教職員対象の報告書ではあるが、家庭に対するメッセージも含めながら作成している。今後この調査結果と学校から家庭への周知について、それぞれの役割を検討しなければいけないと思う。

(松尾委員)

P T Aの方からP T Aだよりのようなものから発信するのはどうだろうか。

(高松教育指導参事)

過去に携帯の使い方について、教育委員会と市P連で作成したチラシを配布したことがあるが、それと同じような方法を活用するのは良いと思う。

【公開案件】 報告事項

(4) エンジン01in 釧路開催プログラム等について

(小野生涯学習課長補佐)

開催プログラムについては、既に報道等にてご案内のとおり、8月30日に開催した第2回目の合同記者会見において、文化戦略会議側の実行委員会大会委員長である勝間和代さんから発表したところである。

プログラム内容等については、初日の11月2日(金)が、コーチャンフォー釧路文化ホールを会場に、開会式とシンポジウム、コンサートを予定している。

2日目の3日(土)は、釧路公立大学において70以上の講座と、中高生のための職業講座「ハローワーク」を32講座実施する。夜には市内飲食店を会場に、講師と参加者が交流する「夜楽(やがく)」を行う。

最終日の4日(日)は、午前中は釧路公立大学にてハローワークの特別編を、午後からはコーチャンフォー釧路文化ホールを会場にシンポジウムを行い、3日間の幕を閉じる予定となっている。

なお、講座等のチケット販売については9月15日(土)から、夜楽については9月22日(土)から開始したところである。

開催当日まであと1か月ほどとなり、庁内はもとより経済界などとともに、全力で会場運営等に係る準備を進めているところである。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

チケットの売り上げ状況はどうなっているのだろうか。

(小野生涯学習課長補佐)

9月27日お昼現在、チケットが完売した講座が9つあり、残りの座席数がわずかとなっている講座が4つある。全体の総座席数に対する販売率は約40%となっている。

(山口委員)

チケット発売日から昨日までの販売率が約40%というのは、見込みよりは予想を超えているのだろうか。

(小野生涯学習課長補佐)

昨年の開催地等々と東京都と話して比較をすると、去年は大分県だったが、昨年並みには売れている。

(山口委員)

夜楽について、お店によってはここで7,000円というところもあるが、有名人とお話しできると言われたら返す言葉もないが、価格設定としてどうだろうか。

(小野生涯学習課長補佐)

それぞれのお店で普段の宴会の料金等々からみると、割高感があるお店が一部あるのは承知している。しかし、山口委員の申し上げられた部分もあるし、通常の料理のみならず、釧路ならではの料理も特別に用意いただいたり、地域をPRする部分も含まれての金額となっている。

(松尾委員)

もし、講座や夜楽で人数が少なくて、開催できないということは考えられないのか。

(小野生涯学習課長補佐)

今のところは着実に販売を進めているところなので、まずはPRを重ねてぜひ多くの方々に参加していただけるようにしていきたいと考えているので、現時点ではそういったことは考えていない。

(岡部教育長)

夜楽については、どのくらいの販売率か。

(小野生涯学習課長補佐)

9月27日昼現在、23店舗中5店舗が完売している。ハローワークについては、各中学校、高校の先生方の協力も得ながらPRに努めてきた。32講座の平均申込率は約47%となっている。

(山口委員)

本当はその先生の講座を聞いて、夜楽に参加するというセットになっていればいいのだが、夜楽のみ参加して場違いだった、という事にならないような工夫はあるのか。

(川畑生涯学習部長)

各テーブルにいくつか分かれているような形になっていて、時間ごとに入っている講師がシャッフルしながら、参加したみなさんとすべて関わるような形で回されると聞いている。

【公開案件】報告事項

(5) 学校の現状について

(高松教育指導参事)

中学校では、明日からの週末を含め、今週中に9校が文化祭を開催している。また、小学校では、学芸発表会に向けて準備が進められているところである。「信頼」に基づいて、学校の現状について報告する。

初めに、くしろの子ども大集合について、9月1日(土)、釧路市民文化会館で開催した「親と子の心を育む市民大会 くしろの子ども大集合」には、児童生徒190名、保護者111名、教職員199名、高校生・大学生・市民96名、合計596名の参加をいただいた。湖陵高校生徒の司会のもと、健全育成標語の表彰式に続き、附属中学校を含めた各学校の児童会・生徒会代表による学校紹介や、いじめや人間関係づくりについての討論会を行うことができ、所期の目的を達成することができた。

イベントの目玉となる討論会の前段では、6月に行った少年の主張の中から、北中学校、永田悠翔くんの「最も身近なコミュニケーション」という討論会テーマに関連した発表も取り入れたところである。

小学生3名、中学生2名、高校生1名からなる6名のパネラーは、最初は緊張の面持ちであったが、自分の言葉で堂々と考えを述べていた。教職員からの発言もあるなど、例年にも増して会場からの発言が多くなり、問題や課題解決に向けた、多くの子どもたちの思いが寄せられ活発な討論会となった。

また、今年度は連合町内会への案内を強化し、役員に参加をいただいた。今後、連合町内会との連携を図るなど、内容をさらに充実することができるよう努めて参りたいと考えている。

次に研究センターの研修講座について、7校で公開研究会が行われるが、そのうち阿寒湖中学校、景雲中学校、鳥取小学校、湖畔小学校が教育委員会の研究指定校となっている。ぜひ授業参観に来ていただきたい。

次に、小中学校における大規模停電への対応について、9月6日(木)に発生した北海道胆振東部地震に伴う大規模停電の影響により、市内全域の交通信号機が落ち、児童生徒の登校時における安全が確保されないため、6日(木)阿寒湖小中学校の午前授業を除き、臨時休校となったところである。

市内全域の電気の復旧には、数日見込まれることの情報から、6日夕刻には翌日7日(金)の臨時休校が判断されたが、時間の経過とともに携帯電話等の通信が困難な状況となり、校長会の連絡網、学校教職員の連絡網も機能しない学校も見受けられ、情報が届かない家庭もある中、各学校の持つ防犯メールシステムが大変有効に機能したと伺っている。8日(土)正午には、すべての小中学校、及び給食センターの通電が確認されるなど、地域一円の停電復旧がなされ、10日(月)より通常の登校となった。

また、今回の臨時休校による欠授業時数は、余剰時数で対応できる範囲のものであるが、インフルエンザ、もしくは暴風雪による欠時数に備え、土曜日を活用した授業時数の回復も検討されているところである。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

停電に係る校長会の連絡網については現在もバトン方式なのか。

(高松教育指導参事)

そうである。

(山口委員)

今回のような状況が起こったら、校長会の連絡網も、防犯メールシステムのように一斉メールで送れるような形にするとタイムラグが生じないと思う。

(高松教育指導参事)

校長会の中でも情報が行き届かない先生がいたようなので、今後教育委員会と、ゆくゆくそのようなシステムが構築できないか話がでているところである。

(山口委員)

学校によっては土曜活動を活用して時数の確保にあたると言っていたが、学校によって差が生じないのか。

(高松教育指導参事)

学校の持っている余剰時数は年間の教育課程の組み方によって差があり、余剰時数でできる学校もあれば、土曜活動で補填したり冬休みを短くしたいという学校もあり、対応が学校の状況によってばらばらなので、校長会としては学校の置かれた状況で標準時数をしっかりと確保していくという話でまとまっている。

(山口委員)

外から聞かれたときに、どの学校もしっかりと理由を説明できて納得してもらえればいいが、あやふやだったり不信感が生まれにくいような対応が必要だと思う。

(松尾委員)

くしろの子ども大集合に参加させてもらって、意見がたくさん出ていてすごくいいなと思ったが、ただ時間が足りなくて他のテーマについてあまりお話できなかったのがすごく残念だったので、時間の使い方を考えなければいけないと思った。会場から意見をもらう時間がすごくもったいない時間もあったので、テーマをいくつか設けるのであれば、実際やってみないとわからない部分もあって難しいとは思いますが、他の中身をもうちよっと聞きたいという人もいると思うので、工夫が必要だと思う。

(小出委員)

会場からもたくさん意見が出て、パネリストの子どもたちも一生懸命発言していて見応えがあった。参加している学校の子どもたちだけではなく、市内のいろんな学校の子どもたちに見てほしいと思った。各学校の児童会の子どもたちだけでも来てもらうような働きかけはできないのだろうか。

(土江田総括指導主事)

委員のおっしゃる通りで、中学校においてはほとんどの学校が生徒会の役員だけではなく生徒も参加しているが、小学校については親に送ってもらわなければならない部分があるので、来年度こういった形で行うと小学校も参加できるのか、文化会館だけではなく会場を変えていくなど、どんな形でやると参加してもらえるのか考えなければならないと思う。

(山口委員)

以前児童会や生徒会の交流会があったと思うが、今はないのか。

(高松教育指導参事)

交流会については、平常日の午後からの開催ということで、平常の授業を抜けるという課題も含めて、その部分を学校紹介ということで子ども大集合に含んだ形での開催をしているというのがここ6年くらいの経過である。

(松尾委員)

学校紹介をする学校はお友達が応援に行くだとか見に行くが、そうではない学校の場合は子どもたちが子ども大集合自体を知らない。チラシは配っているが、親も見えていないと思う。自分はバスケットボールを教えているので、子どもたちに子ども大集合の話をしたらきょんとしていた。自分は部活を休んで親を連れて行こうと思うくらい見せたいと思ったので、そういう呼びかけもできるかもしれないと思う。小学生は親付きなので、例えば自分のような指導者がいて、教えている子どもや親に声をかけて子ども大集合に行く働きかけができないわけではないと思う。それだけいろんな人に話を聞いてもらいたいと思った。